

○ 読書指導の充実についてどのように改善が図られているか。

国語科では、目的に応じて本や文章などを選んで読んだり、それらを活用して自分の考えを記述したりすることを重視して改善が図られている。

現行学習指導要領の「情報の活用についての指導事項」が、新学習指導要領では「読書と情報活用に関する指導事項」に改められ、読書を通して、ものの見方や考え方を広げ、生活に役立て、自己を向上させようとする態度を育成することを重視している。

【表 1】読書に関する指導事項の新旧比較表

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
(現行) 情報の活用	カ 様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けること。	オ 目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。	
(新) 読書と情報活用	カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。	オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。	オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。

【ポイント】

- ここでいう「読書」とは、本を読むことに加え、新聞、雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含む。そして、それらの本や文章などから得た内容を「情報」としている。
- 「読むこと」の配慮事項として、「様々な文章を読んで、自分の表現に役立てるようにすること。」が示されており、他領域や他教科等の学習との関連を図り、生徒が様々な文章を読んで、自分の表現に役立てる場面等も積極的に設定する必要がある。
- 今回の改訂では、読書に関連する指導事項と言語活動例が「読むこと」の内容に位置付けられた。これは、国語科における読むことの指導の成果が、生徒の読書意欲を高め、読書力を養い、日常の読書活動に役立つものになることを一層重視したからである。読書活動は生徒の人間形成に大きく寄与するものであり、社会の変化に対応して生きていく能力や態度を養う面からも、読書活動を活発にすることが求められる。
- 読書に関する言語活動例をもとに、指導を具体化し、充実を図ることが必要である。

【表 2】読書に関する言語活動例

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
言語活動例	ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。	ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。	ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。